きわかぜ

号　数　第　３５８　号
発行日　令和８年９月23日
発行所　金光教鞆教会
〒550-0011
大阪市西区阿波座2-2-10
TEL&FAX　06(6541) 6313
mail：utubo1905@gmail.com



今年は９月に少年少女全国大会が開催されました（９月13日）

神徳を受けよ、人徳を得よ

教会長　　鍵　山　公　生

幼少の時を忘れて親に不幸のこと



春は３月、秋は９月になると、金光様のお道ではご先祖祭りをさせていただきます。それぞれのご家庭で亡くなられた方の命日にご慰霊のご祈念をしたり、祭典をお仕えになられます。教会では春は春季霊祭、秋は秋季霊祭と申し、皆様のご先祖をお呼び出しして、皆様とご一緒にご慰霊をさせていただきます。

人は生まれたときから何も教えられなくても、母親の乳首の側に行けば自ら母乳に吸い付こうとします。また苦しい時、痛い時、空腹の時や、用便をした時などに、自らの思いを訴えようと泣いて知らせます。これも生まれながら神様から与えられた素晴らしい能力であります。その他、成長するにつれて知恵が付き、

自分の目で仕草を見て、あれこれと覚えることができるのは、素晴らしくありがたいことです。

そして､そこから成長するにつれて､食事をいただくときなど､手を合わせて「いただきます」と言ったり、食後に「ごちそうさま」という感謝の言葉と真心を残すことができるようになるのは神様のおかげであり、親が与えてくれている人間の常識というもので、一生大切にしたい人徳というものでしょう。

私が小学生の頃､父親がお風呂に入ったときいつも､湯船に向かって「パンパン」と拍手を打っているのを耳にしていました。それを聞いて、私も入浴の時に拍手を打ってお湯を使うものだと知って、真似をするようになりました。そのように耳で聞いたり、目で見て覚え、神様のありがたさや、自分の生活の仕方が身についてきたように思います。

テントを担いで九州旅行

私が高等学校を卒業した時、兄と２人で１週間ほど小さなテントを担いで、国鉄列車で九州一周旅行をしたいと計画を立てました。その頃、九州に渡れば州内のどこまで乗っても一定の旅費で乗車できるという便利な切符があって、それを使って旅行したのです。そこでそのことを父に報告したところ、「九州旅行をするなら、宮崎県に住んでおられる秋山さんという方を訪ねてみたらどうだ」と言われました。



その方は戦前に沖縄に住んでおられ、その頃私のおじいさん（鍵山作太郎）が那覇で金光教の教会を開いており、そこへ熱心に参拝しておられたそうです。そして戦争当時、沖縄を後にして宮崎に引っ越して生活しておられるということでした。秋山さんの仕事は数人の織子さんを雇い、反物を製造し、またそれを染色するという作業をしておられたのでした。

私たち２人は福岡を始め、長崎、佐賀、熊本、鹿児島と周り、川の堤防や海岸の砂浜、また長崎では墓地の隙間にテントを張ったり、鹿児島の指宿まで行った時には、温泉宿の方のご好意で無料で温泉に入浴させていただいたり、そのそばの草原にテントを張らせてもらい、一夜を過ごしました。その時お世話になった地方の方々に、今も忘れられないほどありがたいと思っています。

その後、いよいよ父から「お訪ねしたら」と言われた宮崎の秋山さん宅を探して行きました。その方のお宅は広々とした田園風景の真ん中で、のどかなところにありました。

秋山さんご夫妻にお会いして､「大阪からやってきた鍵山作太郎の孫です」と申しますと､「よくぞ来てくださった」と言って、その当時、祖父にお世話になっ

たというお話をあれこれ聞かせていただき、大変喜んでくださいました。そしてその日は食事をごちそうになり、宿泊もさせてもらい、明くる日にはご子息が仕事を休んで私たちに付き添ってくださり、観光バスに乗せて日南海岸を始め、青島、サボテン公園、鵜戸神宮など観光名所を一日中案内してくださり、2日間も泊めていただくという、至れり尽くせりの大歓迎ぶりでした。

そして3日目には三拝九拝して感謝しながら宮崎を後にしました。その日も国鉄の駅まで送ってくださり、「お父様によろしくお伝えください」と言って、お土産とお小遣いまで下さり、恐縮するばかりでした。

その帰りの列車内で兄と話し合ったことは、「秋山さんが私達兄弟をここまで懇切丁寧に歓待して、思いもよらないほどのお世話をしてくださるなんて、一体どういうことだろう」ということで、深く感激したのでした。この秋山さんという方のことは、父から聞くまで私たちは全く知らない方だったのです。

その上に、祖父である鍵山作太郎が亡くなってから私は生まれたので、お会いしたこともありません。そう考えると、おじいさんが秋山さんにどのようなお世話をさせていただいたのかも、今まで全く知らなかったのです。「これは、私たちが知らないところで、誰かが大きな幸せになるお役に立ってくださったのだろう。また、祖父が積んでくださったそのようなお徳のたまものにほかならない」と気づいたのです。

「先の世までも持って行かれ、子孫までも残るものは神徳じゃ」。「神徳は信心すれば誰でも受けることができる」と金光様は仰せ下さっています。神様はそのことを現実に私たちに教えてくださったのでした。これは大変ありがたいことだと、あれから60年経った今でも忘れられない大きな出来事でした。

お徳を積ませていただくには

初代靭教会長・和田安兵衛先生は、労咳（肺病）が元で金光様のご神縁をいただき、初代白神先生のお取り次ぎにより、失われかけた命を助けられたのでした。そのおかげをいただいた喜びとお礼に、住吉から片道2時間かけて大阪教会へ徒歩参拝し、そこに参って来られた新しい信奉者に、自分がおかげをいただいた体験をお話ししてお導きされたそうです。

また自宅にあってはご近所の人を集めて、未信奉者をお導きされたのでした。この参拝は10年間続けられたそうで、その後は大阪教会近くの靭へ引っ越し、お広前を開かせていただき、日参して広前のご用にお使いいただいたそうです。

そのように、自分がおかげをいただいたというだけに終わらず、困っている人のことを聞いては金光様のありがたいみ教えを伝え、お導きされたのでした。そこにお徳を積ませていただける元があるようです。

人助けのお役に立てるために

何事も教会で先生にお届けし、有り難いみ教えを聞かせていただき、毎日金光様へ御祈念していただいていることを忘れず、み教えが皆様のお役に立てばありがたいことです。今私たちは恵まれて、日常生活をさせていただいていますが、そのこと全て、ご先祖が努力され、良きことと思って教え、伝えられてきたもので、ご先祖を大切に慰霊祭も仕えさせていただかねばなりません。

またいつも当たり前と思って出来ていたことが、何かの出来事に出会い、これは当たり前ではなく、大変素晴らしいことだったと気付かせていただくことがあります。

これから私たちは何を目標に人生を歩んでいけばいいかと考えたときに、今の目先のことばかり見ているのではなく、子供の代、孫の代で「よくぞこのような素晴らしいものを残してくださったなあ」と喜んでいただけるような、幸せな世界を築くことができる徳積みの生活を歩ませていただきましょう。

第 79 回　金光教少年少女全国大会参加

9 月 12 ～ 13 日にご本部で開催された、第 79 回少年少女全国大会に靱教会からは 14 名が参加しました。今年から暑さを避けるために初めて 9 月に開催されました。12 日は月例祭後に自動車で 5 名が出発し、金光へ夕方に到着。お広前でのご祈念後、すでに開始されていた霊地夜祭りに参加し、境内の模擬店や、ゆうやけパレード、ステージパフォーマンス、「激突！日本の祭り」などが行われ、最後にみんなで「盆踊り」を踊りました。

翌日 13 日には、9 名が新幹線でご本部に到着し、みんなと合流し合計 14 名となりました。その後、かがやけ大行進に参加しました。中近畿教区では今年のテーマ「サッカーワールドカップ」と題して、今年北米で行われた「サッカーワールドカップ」にちなみ、日本のユニフォームを着た選手たちが、サッカーボールをけってゴールを決めるなどしながら行進しました。12 時 30 分から祭場において「わかば祭」祭典や式典、アトラクションが行なわれた後、それぞれに帰路に付かせていただきました。9 月でもまだ 30 度を超える気温のなかでありましたが、元気に参加することが出来ました。（写真は、表紙及び 6 ページに掲載）

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出ししてご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。（10月24日　午前10時30分より）

令和８年９月

２３日（祝）　秋季霊祭執行　午前１０時３０分

２７日（日）秋の合同墓前祭　（瓜破霊園にて）　　午前１０時３０分



１０月

１日（木）　月例祭執行　　午前１０時３０分
１０日（土）　御本部　生神金光大神大祭参拝
１１日（日）　月例祭執行　午前１０時３０分
１２日（月・祝）　　うりわり墓参　　午前７時
２４日（土）　月例霊祭執行　午前１０時３０分
祭典後教話：大阪府連盟布教部講師

１１月

１日（日）　月例祭執行　午前１０時３０分
３日（祝）　御大祭準備大掃除　午前１０時

生神金光大神大祭　奉行

１１月８日（日）午前１０時３０分より

祭典後教話：大阪府連盟布教部講師

第79回 少年少女全国大会







かがやけ大行進では、トロフィーを掲げたりサッカーボールをゴールに入れながら、思い思いに行進を行いました。

道の子大会に参加

6月28日中近畿教区少年少女会主催の道の子大会に参加。千早赤阪村にある千早川マス釣り場にて開催され、マス釣りの後、釣れた魚をさばいて串に刺してバーベキューにして頂きました。



